



ワンコイン
ブック

信しん 心じん

四
衢
亮



東本願寺出版

信^{しん}

心^{じん}

四^{よつ}

衢^{つじ}

亮^{あきら}

「信じる」といふこと

アンデルセンの有名な童話『はだかの王さま』。新しい服が大好きな王さまを、二人組の詐欺師がまんまと騙すというお話です。布職人に扮した詐欺師が、「愚か者」には見えないという上等で素晴らしい柄の布を織る振りをしてみせ、さらに洋服を仕立てる振りをし、王さまにその服を着せたことにして、下着姿で街を練り歩かせます。王さまも家来も街の人々も、布が見えないと言うと、

「愚か者」だということになりますから、誰もかれも必死に見える振りをして、布や服を褒めるのです。そうやって、皆が「見える」「りっぱだ」と言うものですか、いよいよ「見えない」とは言えない雰囲気になり、変だなという疑問や、本当は布など無いのではないかという疑いを押し殺してしまいます。

童話では、見栄もはらない、雰囲気にもまれない子どもが、「王さまははだかだ」と声をあげること、皆が騙されていたことに気づいていきますが、王さまは